

災害に強い森づくり 事業検証報告書 2020



令和2年(2020)

兵庫県

災害に強い森づくり事業検証報告2020の発刊にあたり

県土の67%を占める森林は、山地災害の防止、洪水・濁水の緩和、自然とのふれあいの場の提供など、様々な公益的機能を発揮し、県民の生活を支えています。私たちは、この豊かな森を守り、育て、次世代へと引き継いでいかなければなりません。

平成16年には、一連の台風災害等で、甚大な山林被害が生じました。この経験を踏まえ、森林の防災機能を高めるため、平成18年度から3期15年にわたり、「県民緑税」を活用した「災害に強い森づくり」を進めてきました。

「県民緑税」の活用にあたっては、税を負担していただく県民の皆様のご理解が欠かせません。このため、平成28年度から5年間の第3期対策についても、学識者による事業検証委員会を設置して、専門的な視点から、事業効果を検証いただきました。

事業検証委員会の服部保 委員長をはじめ、委員の皆様には、2箇年にわたり精力的にご議論いただきましたこと、深く感謝申し上げます。

事業検証の結果、伐倒木を利用した土留工の設置による表面侵食防止機能の向上など整備効果が明らかになり、平成30年7月豪雨後の緊急点検でも整備地に被害発生がなかったことが確認されました。

また、今後、記録的豪雨や台風による被害が甚大化、頻発化する中、流木・土石流のおそれのある危険溪流等が依然残っていることや、六甲山系の崩れやすい風化花崗岩での対策などの必要性を踏まえ、これまでの成果を活かしつつ事業継続することが妥当との提言も頂きました。

このたび、事業検証委員会での検証結果と評価をとりまとめた「災害に強い森づくり事業検証報告2020」を発刊する運びとなりました。関係の皆様をはじめ、広く県民の方々に是非ご一読頂き、取組へのさらなるご理解をお願いする次第です。

今後とも、検証に盛り込まれた「災害に強い森づくり」を施策として着実に実施し、ひょうごの豊かな森づくりを推進してまいりますので、県民の皆様には、引き続きご理解の上、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年12月

兵庫県 農政環境部長 寺尾 俊弘

目 次

I 「災害に強い森づくり（第3期対策）」の導入の経緯

- 1 平成26年8月豪雨災害の状況 1
- 2 「災害に強い森づくり」の課題と取組 4

II 事業検証の方針

- 1 事業検証委員会における検討 8
- 2 各事業の目標とする機能と主な調査項目 10

III 「災害に強い森づくり（第3期対策）」の整備効果の検証結果について

- 1 「災害に強い森づくり」（第3期）事業効果検証の概要 12
- 2 緊急防災林整備（斜面对策） 14
- 3 緊急防災林整備（溪流対策） 21
- 4 針葉樹林と広葉樹林の混交整備 27
- 5 里山防災林整備 33
- 6 野生動物共生林整備 43
- 7 住民参画型森林整備 55
- 8 都市山防災林整備 69

IV 事業評価

- 1 数量的評価 73
- 2 経済的評価 78
- 3 経済波及効果 82

V 「災害に強い森づくりの新たな展開」に向けた提言

- 1 背景 84
- 2 近年の豪雨等の多発化など現状・課題 84
- 3 提言 86

資料編

- 1 「災害に強い森づくり（第3期対策）」の実施状況（平成28年度～令和元年度）
- 2 「災害に強い森づくり（第1期対策）」の導入の経緯
- 3 「災害に強い森づくり（第2期対策）」の導入の経緯
- 4 「災害緩衝林整備方針の手引き」
- 5 SDGsについて
- 6 県民緑税及び森林環境譲与税の棲み分け
- 7 引用文献・参考文献

